「731部隊展」とその開催「20周年記念シンポジウム」がこの夏、東京都内で開催されました。

「731部隊」とは、一九三六年、旧日本陸軍により旧満州ハルビン市に創設された細菌戦部隊。ここで行なわれた生体実験の犠牲者は「丸太」と呼ばれ、中国人などの捕虜約三千にも上るといいます。「731部隊展」は二十年前に民間からの運動によって始められ、全国を巡回、隠されてきた日本の侵略戦争の凄惨な実態を伝えました。（「731部隊展2013」は八月三十一日終了）

731部隊ボイラー煙突跡

「731部隊展」の開催20周年記念シンポジウム

被害者の凄惨な実態を明らかに

「20周年記念シンポジウム」は九月一日、明治大学駿河台キャンパスで開かれました。単長清女史（侵華日軍第731部隊罪証陳列館書記）の挨拶につづいて被害者遺族三氏が報告。

最初の報告者は張可偉さん。一九三九年生まれ、錦州市在住。一九四一年、牡丹江に住んでいた時、牡丹江事件（抗日地下活動への日本軍憲兵による弾圧事件）が起こり、父・張恵忠と母・龍桂潔を憲兵隊が逮捕・拷問。母は釈放されましたが、父親は行方不明。

731部隊が常徳細菌戦実施、常徳上空から航空機でペストに感染したノミを投下。常徳市はペストの大流行に見舞われます。まず県城内で十一月中旬から流行、四二年後半以降はペストに感染したネズミ、ノミや人を媒介して流行は周囲の農村部約五十か村に拡大、死者数は一九四五年までに常徳市全体で少なくとも七千六百四十三人に上ることが判明しています。

731部隊に送られた可能性は否定できません。一九九一年に新宿区戸山で多数の人骨が発見されたのを機に九三年、人骨の身元調査と、父のものと判明した場合の遺骨の返還を求める要請書を提出しました。

一九四一年十一月四日、

李宏華さん（八十三歳、常徳市桃源県）。李さんの一家は父が地元桃源で豚を仕入れ、祖父が月に一、二回常徳県城に運んで販売、生活を立てていました。四二年五月、祖父は常徳県城に入り一泊、そこでペストに感染、頭痛、発熱、リンパ節が腫れ、全身に紫色の斑点がでてきて、戻って四日目の朝、口から血を吐いて死亡しました。李さんの一族全体で十六人が死亡。

被害者遺族の報告をきく

易友喜さん（四十九歳、常徳市東郊郷）。祖父は農業の傍ら農閑期には常徳県城内で波止場での運搬や葬儀の仕事に従事。四二年四月、仲間八人でペストで死亡した人の体を洗ったり、棺桶に入れて墓地に運ぶなど葬儀の仕事をして、全員がペストに感染。四日足らずのうちに全身黒色になり死亡しました。

このあと、吉中丈志さん（京都民医連中央病院院長）「戦後の医学界と731部隊」、山田朗さん（明治大学教授）「陸軍登戸研究所と731部隊」の講演などがありました。